

# かたりべ 3

豊島区立郷土資料館だより



## カルタ

これは戦争中の子供たちが使っていたカルタです。南池袋四―四に住む斎藤操さんをお持ちのもので、今回の企画展「戦中・戦後の区民生活」に展示するために資料館がお借りしたものです。

このカルタは現在のものとは違って旧仮名づかいのカタカナで書かれています。内容でも遊んで楽しむということよりも、むしろ当時の支配者たちが子供たちに身に付けさせたいと考えていた徳目が書いてあります。これをカルタ遊びの中で、子供たちに教えこもうとしたわけです。写真で紹介したものはその中でも極端な内容のもので、そこでは、当時の天皇を中心とする国家が起こした戦争に子供たちが協力することを要求しています。一つは子供も銃後の国民として、慰問袋を作り、戦っている兵隊をなぐさめ、はげますことを奨めています。もう一つは大人になったら兵隊になることを求めています。それが子供たちにとっても、最も天皇に忠義をささげることになるといつているわけです。それは軍人の最高位である元帥としての天皇であったことがわかります。このように戦争中は子供の遊びを通して、戦争への動員をはかるという異常なことが行われた時代であったといえるでしょう。

郷土資料館は、戦後四〇年にあたり、戦争と区民生活の関連をふりかえる企画展を行いました。豊島区も戦争でその六割が焼けるという大きな被害を受けました。そこから復興にたちあがり、新たな都市として発達してきました。そして一九八二年には「非核都市宣言」を行い、反核平和のために努力することを誓っています。こうした取り組みの一環として、企画展では風化しつつある戦争体験を掘りおこし、これを受け継ぎ、戦争の悲惨さと平和の大切さを考えていくことをねらいとしました。

展示は①戦争で変わる地域②統制された暮らし③戦争の中の子供たち④空襲で焼かれて⑤焼け跡の中の暮らし、の五つのテーマで構成しました。

### 企画展

## 戦中・戦後の区民生活

第一のテーマでは、戦争に区民を動員した体制について取り上げました。日本の国家は戦争反対を許さない拳国一致体制をつくり、愛国心に訴えて、戦争への国民動員体制をつくりあげました。地域の戦争体制形成は市や区などの地方公共団体が主導し、行政補助団体も積極的に協力しています。特に町会は整備されて、地域住民全体を組織し、行政の下部組織となり、その下に隣組がつくられました。こうして上意下達の機構ができ、区民は戦争に加担させられました。

第二のテーマでは戦争により、軍需生産中心の経済統制がなされ、国民の経済生活が圧迫されるようすを取り上げました。軍事費をまかなうための債券の購入、貯蓄奨励、消費節約など

国家の経済政策に協力する運動が行われます。鉄・綿などはなくなり、粗悪な代用品が出回りました。さらに食料品や衣料品などの生活必需品は配給切符がないと買えなくなりします。第三のテーマは子供への戦争の影響を取り上げました。学校のあり方は軍隊式になり、軍事教練も強化されます。戦争末期には国民学校の児童は地方に疎開しますが、食料難のもとで親と別れて、つらい思いで過ごしました。中等学校では勤労動員が多くなり、勉強が出来ないほどになっていきます。

第四のテーマでは空襲によって区民生活が破壊されるようすを取り上げました。戦局が日本に不利になるにつれて、アメリカ軍による空襲

がはげしくなります。豊島区は一九四五年四月一日の空襲などで焼け野

原となりました。被害のようすは、被災して変形した花器・ビン・米などでしのぶことができます。こうして戦争に協力・加担した区民は犠牲を被りました。

第五のテーマは焼け跡から、生活再建に立ちあがる区民のようすを取り上げました。戦争に敗けたことにより民衆は戦争とその遂行のためにつくられた専制体制から解放されました。戦争体制を担った組織として町会・隣組も解散させられます。しかし、文化会・生活協同組合などの形で町会の後継組織がつくられました。地方自治体もこれらの組織に依拠して戦後復興への

区民の協力を引き出そうとしました。東京など都会の戦後は深刻な生活難・食料難の中での出

発でした。経済統制は続いていましたが、配給など公のものだけでは生活が維持できないうで、みんなヤミの買い出しによって生きのびていました。

企画展は一月五日から二月一日までの会期で開かれましたが、期間中の来館者は一六〇八名でした。このうち、こどもは四六五人です。これには椎名町小学校、池袋第三小学校、日の出小学校の見学も含まれています。企画展は、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、東京新聞、豊島新聞、NHK、NTVなどで紹介されました。

企画展の感想									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

四四歳 女性

大変良い企画だと思いました。話には聞いていても、どんな物かわからない物がたくさんありました。現実はこの目で見えて確かめることがどんなに大切なことかと思知らされました。この特別展によって次の世代へ語り継ぐことがより確かなものとなることと思いました。説明を加えて下さったらもっと良いと思いました。

二五歳 男性

戦後四〇年という一つの節目を捉えたタイムリーな企画であったと思います。ただ、一、二

申し上げるならば国民の被害の側面と同時に、間違つた体制への協力の側面や反戦の動きなどについてもつと光があてられればよかつたように思います。

七八歳 女性

同年令の方々は灰色の青春時代と云つて居りました時代の特別展で感慨深く拝見致しましたが色々の思い出がひとつひとつの御品でかけめぐりますが、今このよき時代生きている事のみ考えて感謝を致して居ります。戦争でなくなつた方不幸になつた方に対してお気の毒でなりません。

五八歳 女性

地方に住んでいても戦時下の耐乏生活は大へんでしたが、空襲におびえていた東京の生活はどんなに恐しかったかと思ひます。二度と起してはならないと痛感させられました。多くの人に見てもらいたいと思ひます。

七四歳 男性

戦争は二度と繰り返したくないと思ひます。若い方々にもぜひ見てもらいたいと思ふ。この特別展はターミナルデパートでもぜひやつてもらいたい。

六〇歳 男性

四〇数年もの長い間よく貴重な資料品物等を保有されていたことに感心した。提出された資料は今後もよく保管の上、八月又は節目の年等に展示されることを願ひます。

七三歳 男性

昭和初期から巢鴨二丁目巢鴨駅近くに住んでおりましたが戦争が激しくなく、爆弾投下される頃(昭和二〇年三月)熊谷市へ疎開致しましたので、その頃の不自由を今さらながら思ひ出します。今日の飽食時代になつてもう一度「ゆるむ心のネジ」を巻けと言ふ気分になりました。

六七歳 女性

豊島区の昔の姿がよく分り又戦争を生きぬいて来ました者にとつて、本当によく色々の品物を取つてあつたと思ひ、今さら乍ら感動を致しました。

### シリーズ 地名のはなし 第二回

池袋は現在、豊島区の代名詞のように知られ、東京の副都心の一つとして有名です。この地名の由来となるといわれる池が「丸池」として現在、池袋駅西口の元池袋公園内に残されています。

### 池

池袋の名の由来については昔からいろいろ語られています。文化・文政年間(一八一四〜一八二九)に書かれた「遊歴雜記」という地誌によると「当村を池袋と号けし事ハ、往古夥しき池ありしによつてなり」として、さらに「此の西の果ハ池袋と雑司が谷との村境ひにありて、常に逆(へ)水湧出し流る。」と述べています。この湧水に相当するものが「丸池」になる訳です。

同じ頃に編纂された「新編武蔵風土記稿」

では「池袋村は地高くて東北の方のみ水田あり、其辺地窪にして地形袋の如くなれば地名起りしならん」としています。

この両者の説明は前者が「池」の後者が「袋」の説明をしていることになりましたが、漢字にこだわることはいりません。

池袋という地名は全国にそう多くありませんが、上に池の付く地名は大変多く、明治の村名だけでも一八九を数えます。それ等の多くは池や水辺に関係するものがやはり多いので、ポイントはフクロにあるでしょう。

柳田国男はかつて武蔵国におけるフクロのつく地名を検索して、その地形が「二面以上水で囲はれて居らぬのは稀であつた。」と述べています。そして、平地で水辺の所をフクロと呼んだと考察しています。してみると「池袋」とは同義を重ねた地名ということになります。しかし、湧水があり池のあつた地とは旧池袋村のむしろ南のはずれにあたります。ですからこの地の特徴の「印象」が強く北の地域の方にまで広まって地名化したと考えられます。

「丸池」の湧水は水量が豊富で、これが弦巻川となり鬼子母神付近を通り、「末は江戸川へ落込、」ます。つまり、この水は雑司が

### 袋

谷村を横断し、その用水となつていて、実は池袋村の水利には関係ないのです。「池のある湿地」という印象は雑司が谷村にとってこそ強烈なはずで、イケブクロという呼称は先に開発のすすんでいた雑司が谷地域の人が自分達の生活用水の源地方を指して呼んだものが地名化したのかもしれない。

(S・K)



図絵にみる庶民生活 第二回  
—「江戸名所図会」の世界—

巢鴨の真性寺は山号を醫王山といい、新義真言宗の寺院です。創立年代は不詳ですが、元和元（一六一五）年の中興と伝えられます。図は一八三〇年代の境内の様子を中心にしたものです。表門がすかも通り（中山道）に面していたことや、鐘楼が本堂前にあったことなど、現在とくらべ、ちがいがみられます。表門の左右は門前町屋となっていて「地誌御調書上」（文政九年）には家数八軒（家守一軒、店借七軒）あったとい、図の表門右側の民家がそれにあたるのですし

### 巢鴨真性寺

六地藏三番目とあり、また「東都歳事記」なども三番としています。縁起には天下安全・城下繁栄などとともに、産の道にご利益があるといつて女人の信仰を集めようとしています。図の後景に天神山とありますが、現在の菅原神社（子安天満宮）のことで、江戸時代には真性寺が別当でした。この神社は、巢鴨村の草分け百姓保坂氏の先祖仁平三河守なる者が、戦国時代、三河国よりこの地に移住し、屋敷神として北野天満宮より勧請したのがはじまりといえます。真性寺の近辺は植木屋の多かった所ですが、植木溜が描かれていないのは残念です。

（菊池）

真性寺といえれば何といつても江戸六地藏でしょう。深川の地藏坊正元なる者が一八世紀初め、江戸のおもな街道口に六体の銅造地藏菩薩像を建立したうちのひとつです。製作したのは神田鍋町の鋳物師太田駿河守正儀です。ほかに品川品川寺、四谷太宗寺、山谷東禪寺、深川靈巖寺、深川永代寺（消滅）に造立されています。真性寺のものは建立の順序からいうと四番目のようですが、境内石碑には

### 編集後記

企画展「戦中・戦後の区民生活」は好評のうちを終了しました。ご覧いただいた方の感想はやはり、「戦争は二度といたくない」という強い気持と、「よく残っていたな」という感慨とが多いようです。戦争は生活を大きく変えました。しかし戦争ばかりでなく六〇年代の高度成長も現代生活のスタイルを変えました。

図絵にみる庶民生活を連載していますが、生活スタイルの変化は風景をも変えています。一目瞭然でしょう。資料館はビルの七階にあつて研究室の窓からは新宿の高層ビルが正面に見えます。すぐ眼下には徳川林制史研究所の森があつて季節の変化をつけてくれます。動く景色もあります。黄色い西武電車です。窓の隅上空を東京タワーをかすめ、ランディングライトを点滅した飛行機が羽田に降りていくのが見えます。ラッシュ時は実に三分弱毎に銀色の姿を現します。この風景もいずれかわつてしまうのでしょう。

かたりべ

No.3

1986年1月20日

発行

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-980-2351